



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	DPL静岡ビル 新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	--------------	-----	---	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

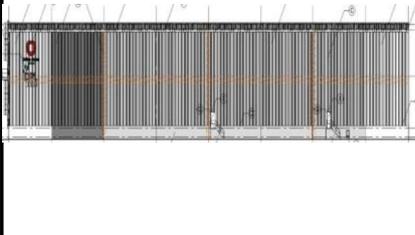
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.7 /5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.7 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5 /5		ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	2.7	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 特になし。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨BEIm=0.46。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫LGS使用している。⑬ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率76%。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.7
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特になし。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高:3.9m以上。⑳[壁長さ比率] <0.1。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特になし。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.5	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) 特になし。 ■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善) 特になし。 	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ・景観への配慮 3 3.2 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉕ 温熱環境悪化の改善			

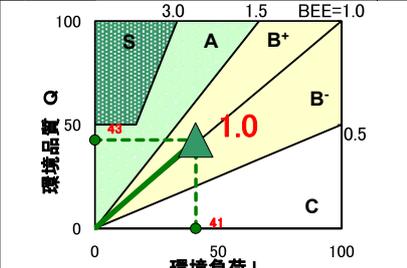
CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	DPL静岡袋井 新築工事	階数	地上2F		
建設地	静岡県袋井市山科2953-1、2953-2、2954-1、2955-1、2955-4、2956-1、2956-2、2956-3、2957-1、2957-2、2958-2、2958、2959-1、2960-1、2961-1、2966-1、2967-1、2968-1、2969-1	構造	S造		
用途地域	工業専用地域・防火地域指定なし	平均居住人員	56人		
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年11月14日		
敷地面積	7,801 m ²	作成者	山本 陽介		
建築面積	4,087 m ²	確認日			
延床面積	8,002 m ²	確認者			

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

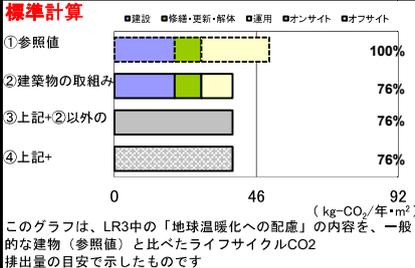
BEE = 1.0 ★★★★★



環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

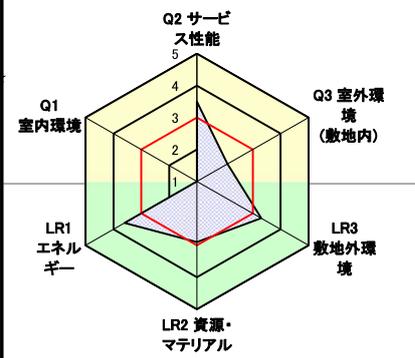
2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算 (kg-CO₂/年・m²)



① 参照値: 92 (100%)
② 建築物の取組み: 76 (83%)
③ 上記+②以外の: 76 (83%)
④ 上記+: 76 (83%)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



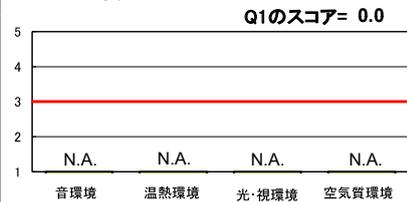
Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境 (敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

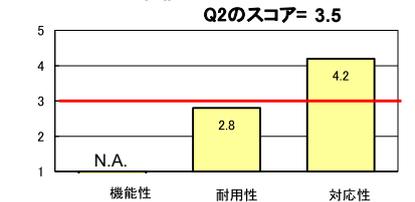
Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0



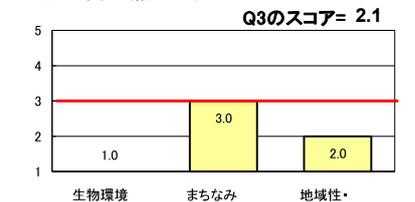
Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5



Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

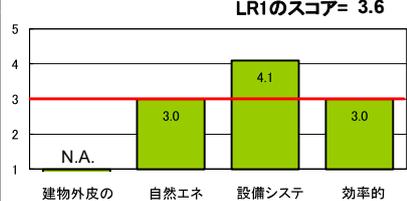


LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.3

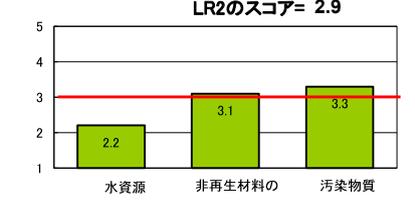
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6



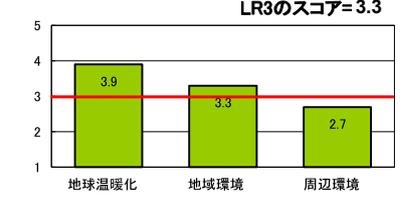
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡 (2021年版) による評価結果です。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 評価対象外。	Q2 サービス性能 階高: 3.9m以上。 そして、[壁長さ比率] < 0.1。 また、床荷重: 14,700N/m ² 。	Q3 室外環境 (敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー BEIm = 0.46。	LR2 資源・マテリアル LGS使用している。 そして、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率76%。 そして、燃焼機器を使用していない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される